



# 国際会長ニュース

命の川を信じよう

第5号 2020年11月



国際会長 ジェイコブ・クリステンセン

このニュースは、1年を通して、毎月の寄稿記事や最新状況の報告によって、YMI会員の皆さまに情報をお伝えするためのものです。このニュースをお受け取りになった際には、できるだけ多くの会員の皆さまに転送いただければ幸いです。メンバーは、何も受け取らないよりも、重複して2部を受け取る方が良いでしょう。

## 会員の皆さまへ

国際会長ニュース 11月号へようこそ。今号では、アレキサンダー奨学基金 (ASF)、IHQからのニュース (次期国際会長選挙の候補者、ポータルバズ、新型コロナウイルス、新しい研修教材)の記事が掲載されています。「良い話を伝えよう」では、りんご狩りのクラブ活動、Week4Waste (ゴミのための週)の活動事例を紹介しています。新型コロナウイルスの蔓延のため、デンマークからの出張はありませんでしたが、地域会長、次期地域会長、国際事業主任、委員会、タスクフォースとの会合や地域、区、部レベルの多くのバーチャルミーティング等、Zoomでのコミュニケーションが絶え間なく行われている忙しい時期です。



ジェイコブ・クリステンセン  
2020-21 国際会長

この選挙に投票する資格があるクラブは、11月30日までに、国際憲法のガイドライン 410に基づいてグッドスタンディングであること、過去3半期の会員数が15名以上であること、およびクラブ会長の情報がIHQに登録されていることが条件です。

会員数が5~14名のクラブで、少なくとも設立25年以上が経過したクラブは、投票権を得るために、最低会員数の免除を申請することができます。(東西日本区では区事務所が一括申請) 締め切りは2020年11月30日です。

現在、多くの区で、クラブの会員情報を管理するためにポータルバズを使用しています。クラブ(区)は、会員情報を常に最新の状態に保つように求められていますが、IHQが適切な会費の請求書を発行できるように、8月10日と2月10日には、正確な会員情報を記録しておくことが特に重要です。

## IHQニュース

IHQは、現在、毎年恒例の次期国際会長と次期国際議員)の選挙の準備に追われています。最終的な次期国際会長候補者は、国際議会にて、以下のとおり選出されました。

- クーダシナリル・チャッコ・サミュエル  
(南インド区、インド地域)
- オン・ケン・ワン「エドワード」  
(南東アジア区、アジア太平洋地域)
- スタイバース・アピキ・ロバート「ボビー」  
(ハワイ区・USA地域)

オンライン投票は、2020年12月15日に開始され、2021年1月29日に終了します。詳細は、「RDメモ2」を通じて投票権のあるクラブに通知されます。

私たちは、今も新型コロナウイルスの脅威に直面しており、国際役員は、地域のリーダーと常に連絡を取り合い、この問題に一丸となって対処しています。次期国際会長であるキム・サンチェ博士は、2021/22年度の準備について次期地域会長と話し合いを始めました。2021/22年度の区役員、部役員、クラブ役員は、来年度の計画を準備してください。

新しい研修教材を国際協会ウェブサイトに掲載しました。クラブと全てのレベルのリーダーはぜひご利用ください。

新しい研修教材は[こちら](#)をクリック

## アレキサンダー奨学基金 (ASF) 11月の強調月間テーマ

ワイズメンズクラブ  
国際協会の創設者  
であるポール・ウィリアム・アレキサンダー  
一判事にちなんで名  
付けられたアレキサ



Alexander Scholarship Fund

ンダー奨学基金 (ASF) の歴史は、1950 年にメキシコシティで開催された国際大会で、ワイズメンが有名な画家にポールの肖像画を描いてもらうためにお金を集めたことにまで遡ることができます。彼は、これは贅沢であり、私たちの運動の本質に反していると考えましたが、より少ない費用で写真撮影をされることには同意しました。余った 905 ドルは、YMCA の主事のトレーニング費用に充てるために信託基金に組み入れられることになりました。この写真は、1954 年にミシガン州イーストランシングで開催された国際大会でポールに贈呈され、信託契約が承認されて ASF が正式にスタートしました。

過去 66 年間、ASF は YMCA との親密な関係の証として、主に YMCA スタッフや YMCA につながる青少年のための奨学金や研修プログラムを提供するために、世界的にも、また、各地においても資金面での支援を行ってきました。

各地域、区の ASF に集められた募金総額の 30% は、YMCA の世界レベルでの特定の目的のために国際本部に送られています。近年では、毎年約 10,000 スイスフランが国際本部に寄せられており、その用途は、例えば、YMCA の未来を担う若者であるチェンジエージェントの支援や、2019 年 8 月にロンドンで開催された YMCA の 175 周年記念式典の支援などに使われています。

特に今年は、世界 YMCA からの要請を受け、ワイズメンズクラブ国際協会は、新型コロナウイルスパンデミックの影響で困っている世界中の YMCA を支援するため、「YMCA 連帯基金」に 10,000 スイスフランを寄付しました。

残りの 70% は、各地での YMCA のスタッフやユースリーダーのトレーニングや育成に活用されています。カナダ・カリブ海地域では、今年の ASF 資金は、YMCA に強い関心を持っている現役の若いワイズメンズクラブメンバー 2 名の奨学金として用いました。

また、東西日本区では長年にわたって、それぞれ毎年 100 万円ずつ(約 8,500 スイスフラン)を、青少年のための研修プログラムを支援するために、日本 YMCA 同盟に寄付してきました。

世界中の多くの YMCA は、新型コロナウイルスパンデミックの影響で事業やプログラムが制約され、経済的な苦境に立たされています。今こそ私たちは、ASF への寄付を含め、YMCA をサポートする取り組みを強化しな



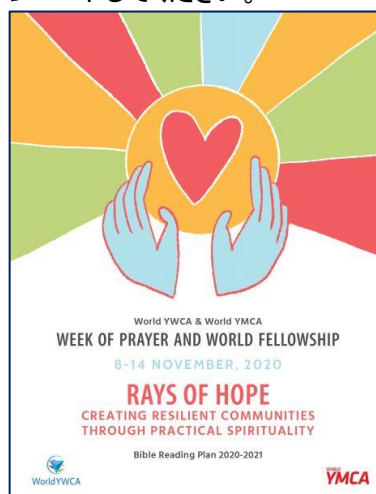
ればなりません。私たちの組織の、創立時からのそして最も大切なパートナーである YMCA の支援に向けて、心熱くいざ立ち上がりましょう！

ASF について、詳しくは [こちら](#) をクリック

## 世界 YMCA/YWCA 合同祈禱週

1904 年以来、世界 YMCA 同盟と世界 YWCA 同盟は、伝統的に合同で「世界祈禱週」を開催してきました。祈りの週間は、11 月の第 2 日曜日に始まり、次の土曜日まで続きます。ワイズメンズクラブ国際協会は、YMCA と YWCA と協力してこのイベントを推進しています。今年の祈りの週間のテーマは「希望の光：実践的なスピリチュアリティを通じた弾力性の高いコミュニティの創造」で、11 月 8 日から 14 日まで開催されます。

詳しくは、[ここ](#) をクリックして、対話型の祈りの小冊子をダウンロードしてください。



「強い義務感を持つ 義務はすべての権利に伴う」



## 田舎での一日

デンマークのスカン Å・ワイズメンズクラブは、男女 39 名のメンバーで構成されるクラブです。10 月初旬にはチャリティー活動のための募金活動としてリンゴ狩りを行っています。毎年 2 人のメンバーが早起して車で北へ 100km のロズリー果

樹園まで行き、後に続く 20~25 人のメンバーのために朝食の準備をします。伝統的なデンマークの朝食ロールは、私たちの前途に備えるにはちよ



うど良いものです。りんご狩りは複雑な作業ではありませんが、正しく行わなければなりません。強く引っ張ってはいけません。りんごを傾けて摘まなければなりません、りんごには茎がついていなければなりません。

そして、地面から拾ってはいけません。トラクターとワゴンにダンボール箱とはかりを用意して、いよいよ作業・楽しみの始まりです。ダンボール箱を組み立てる者もいれば、摘み取る者もいれば、重さを量る人もいます。立派なリンゴの木がいっぱいの果樹園を歩くのは、なんて素晴らしいことでしょう。

子どもや孫の話などで盛り上がります。また、売り

ものにならないりんごの的当てに挑戦する者もいます。収穫後は、弁当を食べ、会話も弾み、クラブの誰かがケーキを焼いてくれば皆、大喜びです。仕事が終わりと、トレーラーが一杯になったところで、彼らは、事前に注文した人たちに届けられる美味しいリンゴの箱を持って、南へと再びドライブします。労働と社交は、Y メンズクラブの最も重要なものであり、また、収益が良い用途に用いられていることも喜んでます。

スカン Å・ワイズメンズクラブ

アニー&ローリズ ハンセン

Tell a good story.



## Week4Waste の取り組み

2021 年 4 月 18 日から 4 月 24 日まで、ワイズメンズクラブ国際協会の全会員は、ゴミ拾いとゴミ問題への意識向上に特化した特別な一週間に参加することを求められています。いくつかのクラブでは、既に早くから活動を開始しています。ロシアとデンマークでは、クラブが街頭や公園でゴミ拾いや清掃活動を行っています。



ウルリック・ラウリドセン（直前ヨーロッパ地域会長。右から 2 人目）が Week4Waste の推進をリードしていますが、この写真は、デンマークのヴァイレでの活動風景です。

ロシア、サンクトペテルブルクのクラブは、地元の公園でゴミを拾いました。



デンマーク、ヴァイレ・ヴァドステットクラブは、地元の通りのゴミを拾いました。

ロシア、エカテリンブルグのメンバーは、地元の公園を清掃し、大量のゴミを集めました。



ロシア、キーロフスクのワイズメンは、「古紙を集めて木を救おう！」プロジェクトに参加しました。彼らは 470kg の古紙を集め、5 本の木を助けました。